

早害で甘藷は減收豫想

收穫高は三千五百一十一萬余貫

本年九月十五日現在に於ける本縣の甘藷栽培現在面積は一萬二千三百七町一段で前年作付反別に比すれば四百六十九町六反(〇割四分一厘)を増加し之が豫想收穫高は三千五百一十一萬五千七百七十五貫で前年收穫高に比し七百五十七萬四千六百一貫(一割七分七厘)の減收豫想を見た。尙前年に比し作付段別の増加したのに拘らず收穫高の減收を見たのは植付後に於て早害を蒙り生育不良だつたのに依るもの、様で之を郡市別に示せば次の通りである(△印は減少)

郡市	栽培現在面積		豫想收穫高		前年收穫高對比	
	反	反	反	貫	反	貫
水戸	二、六	△	五、三	七、八〇〇	△	三、四〇〇
東茨城	九〇、四		一〇二、八	三、五七、六五		三、三、三一
西茨城	三三、五		四五	九〇、七三	△	三、六七
那珂	一、八三四、九		一〇六、六	六、九三、五六	△	二、三、七〇〇

久慈	四九、六		二四、二	一、三、一、三三	△	五、七、七
多賀	四七、七	△	一八、九	一、〇、六、八〇	△	四、八、四
鹿島	三、八五、八		一八、三	七、八、九、六三	△	三、九、一、八九
行方	五〇、七		五、五	一、一、四、三九	△	四、五、三、四
稲敷	七三、七		四、四	一、九、三、五三	△	二、四、二、六
新治	六三、八		五、二	一、九、三、六八		一、三、四、五〇
筑波	四七、一	△	三、一	一、九、〇、四九		一〇、二、六
眞壁	七四、六		六、三	二、四、五、〇六		一、三、三、五
結城	四〇、〇	△	二、七	一、三、〇、三三	△	九、二、七
猿島	七〇、三		五、九	二、四、二、三四	△	六、八、二、五
北相馬	三六、四	△	二、二	七、八、七、七	△	三、三、九、〇
合計	三、三、七、一		四九、六	三、二、五、一、七五	△	七、七、四、〇、一

本年夏秋蠶

豫想收繭高

百六十七萬余貫
一割七分余減少

本年九月二十五日現在に於ける縣下の夏秋蠶豫想收繭高は百六十七萬四千八十貫、内白繭種百六十七萬二千二百貫、黄繭種千九百八十貫で前年收繭高二百二萬五千五百三十二貫に比し三十四萬七千四百五十二貫即ち一割七分一厘九毛の減少を示した。而して以上の様な減少を豫想されるのは夏季に於ける早害の爲桑樹の發育が充分でなく且桑葉が硬化したため、稚蠶期に於ける給桑の支障を見越した爲掃立を減少したのに依るもの、様である、郡市別は次の如くである。(四捨五入十位に止めた爲内譯と計と一致しない)

郡市	豫想收繭高		前年に比	
	白繭	黄繭	計	増減
水戸	一、三、三〇		一、三、三〇	△
東茨城	一、四、一七〇		一、四、一七〇	△
西茨城	六、五、〇〇		六、五、〇〇	△
那珂	四、六、〇〇		四、六、〇〇	△

久慈	四九、六		二四、二	一、三、一、三三	△	五、七、七
多賀	四七、七	△	一八、九	一、〇、六、八〇	△	四、八、四
鹿島	三、八五、八		一八、三	七、八、九、六三	△	三、九、一、八九
行方	五〇、七		五、五	一、一、四、三九	△	四、五、三、四
稲敷	七三、七		四、四	一、九、三、五三	△	二、四、二、六
新治	六三、八		五、二	一、九、三、六八		一、三、四、五〇
筑波	四七、一	△	三、一	一、九、〇、四九		一〇、二、六
眞壁	七四、六		六、三	二、四、五、〇六		一、三、三、五
結城	四〇、〇	△	二、七	一、三、〇、三三	△	九、二、七
猿島	七〇、三		五、九	二、四、二、三四	△	六、八、二、五
北相馬	三六、四	△	二、二	七、八、七、七	△	三、三、九、〇
合計	三、三、七、一		四九、六	三、二、五、一、七五	△	七、七、四、〇、一

春蠶收繭高

本縣は第七位

全國今年の春蠶收繭高は四千五百五十萬三千九百三十三貫で前年より四百一十一萬一千四百五十九貫を増加したが府縣收繭高の最高は三百九十一萬三千四百二十八貫の群馬縣で第二位は長野縣の三百七十七萬八千七百一貫、第三位は埼玉縣の三百十七萬七千七百三貫、第四位は愛知縣の二百五十七萬八千九百十四貫、第五位は山梨縣の二百四十六萬八千九百二十四

貫、第六位は福島縣の二百四萬四千二百二十二貫で二百二萬三千五百六貫の收穫を見た茨城縣は第七位である

麥の實收高

本縣が第一位

全國の昭和十二年麥實收高は去る九月四日農林大臣官房統計課から發表された、大麥は五百四十五萬二千九百八十七石で豫想收穫高に比し三萬五千三百三十七石を増し、前年實收高に比し十三萬三千二百四十石の増收を見たが前五ヶ年平均實收高に比較すると十六萬九千二百七石を減少して居り八十萬

六千六百六十四石の實收を見た茨城縣が全國の首位を占めて居る。又小麥は八百八十二萬三千六百三十七石で豫想收穫高に比し十二萬二千七百二十七石、前年實收高に比し七十四萬三千五百七十六石、前五ヶ年平均實收高に比し百十六萬五千六百十三石を何れも増加して居り茨城縣は七十二萬四千九百九十一石を以て全國の第一位である。稈麥は總數五百七十九萬九千六百五十五石で豫想收穫高に比し十五萬五百五十五石、前年實收高に比し十二萬九千二百十八石を何れも増加し前五箇年平均實收高に比すると十五萬一千八百五石の減少で四萬一千七百六十七石の實收を見た本縣は全國府縣の第二十四位である。

統計調査員異動

(上は新任括弧内は舊)

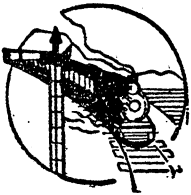
昭和十二年九月二十二日 新治郡林村
櫻井 藤三郎 (増田 政雄)
全 九月十五日 久慈郡黒澤村
鈴 木 實 (鈴木 長男)
全 十月七日 猿島郡七重村
相澤 倉重 (飯田 三四郎)
全 十一月十二日 筑波郡小野川村
櫻井 正夫 (櫻井 紘)

統計主任者異動

(上は新任括弧内は舊)

飯野 寅雄 (柳澤 龜之助)
全 十月十四日 久慈郡佐竹村
岡崎 駿三郎 (赤須 種吉)
全 十月二十二日 行方郡延方村
茂木 威 (久保木 實)
昭和十二年九月十五日 稻敷郡阿波村
木内 俊一 (野口 芳次郎)
全 九月十六日 稻敷郡八原村
大橋 博郎 (寺田 靜一)

全 九月二十日 行方郡玉川村
栗 又 勇司 (鬼澤 七郎)
全 九月二十日 眞壁郡新治村
廣 瀨 博 (海老澤 正男)
全 九月二十三日 那珂郡神崎村
澤 畑 一郎 (伴谷冬太郎)
全 九月二十三日 結城郡中結城村
杉山 清祐 (吉川 好香)
全 九月二十七日 筑波郡久賀村
萩原 義男 (羽田 勝太郎)
全 九月二十日 稻敷郡伊崎村
高城 長治 (黒田 早苗)



各地統計雑信

調査員諸君
何なりと齎
つて御通信
を願ひます

顧問推薦

本縣警察部長、茨城縣統計協會顧問
沖野悟氏は十月一日附を以て内務書記
官に榮轉せられ其の後任として内務事
務官兼關東局事務官の宮田笑内氏が來
任せらるゝこととなつたので十月廿九
日同氏を本會顧問として推薦した。

東茨城郡支部總會

統計協會東茨城郡支部では九月十六
日東茨城郡磯濱町役場樓上に於て臨時
總會並事務研究會を開催し、縣より小
泉屬が出席した、最初平輪磯濱町長よ
り支部長代理として開會の挨拶を兼ね

今次事變に關聯し統計の重要性に付き
種々説明ありたる後、昭和十一年度統
計協會東茨城郡支部歳入歳出決算を附
議し、江橋幹事より説明の後滿場異議
なく之を可決せり。次で事務研究會に
移り縣提出議案に付き小泉屬より詳細
なる説明あり、午後一時散會した、出
席者左の通り

(縣)小泉屬(郡統計協會)平輪磯濱町長、
江橋幹事(上大野村)横須賀助役(下大野
村)平戸書記(稻荷村)山田助役(大場村)
飛田助役(酒門村)坂場書記(石崎村)清水
書記(吉田村)皆川書記(綠岡村)中村書記
(上中妻村)藤地書記(長岡村)寺山書記上
野合村)田家書記(白河村)眞家書記(橋
村)林書記(小川町)高野書記(竹原村)大

酒門村統計調査員會

東茨城郡酒門村では九月二十一日午
前九時より統計調査員會を開催、縣統
計課より小泉屬が出席して夏季、秋季
及米生産統計調査に就き打合を行ひ、
調査上に就き種々懇談の後午後二時閉
會した、出席者左の通り。

(縣)小泉屬(役場)郡司助役、坂場書記
(調査員)齊藤徳次郎、秋山清衛、楡山政
徳、谷中博、萩谷由之介、皆川善衛門、
關清次、坂場源一、郡司常吉

竹原村調査員會

東茨城郡竹原村では十月八日午前十